

平成23年度温室効果ガス排出量実績（報告）

1. 温室効果ガス排出量

平成23年度における洲本市地球温暖化対策実行計画に基づいた事務及び事業に伴い排出された活動量及び温室効果ガス排出量は、次のとおりとなっています。

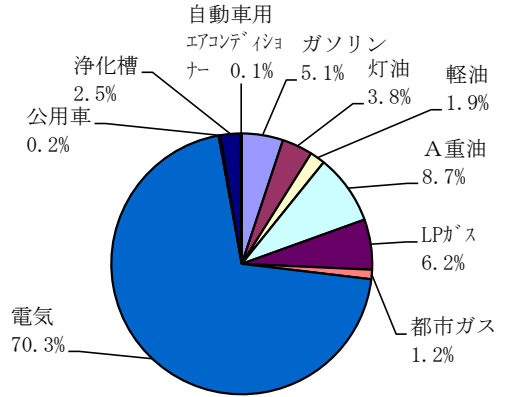
調査項目	単位	活動量			温室効果ガス排出量 (kg-CO2)					
		平成19年度 (基準年度)	平成23年度	19年度比	平成19年度 (基準年度)	平成23年度	19年度比	平成23年度 構成比	増減率	
燃料使用量	ガソリン	L	76,847.1	76,664.3	-182.8	178,283.30	177,858.80	-424.50	5.1%	-0.2%
	灯油	L	45,949.1	52,676.0	6,726.9	115,208.28	132,059.41	16,851.13	3.8%	14.6%
	軽油	L	20,132.3	24,667.2	4,534.9	53,133.30	65,095.70	11,962.40	1.9%	22.5%
	A重油	L	111,942.0	110,579.0	-1,363.0	305,650.60	301,928.90	-3,721.70	8.7%	-1.2%
	LPガス	kg	69,780.7	71,882.9	2,102.2	209,746.72	216,066.83	6,320.11	6.2%	3.0%
都市ガス	m ³	18,873.0	20,220.0	1,347.0	38,019.83	40,732.49	2,712.66	1.2%	7.1%	
	電気使用量	kWh	7,912,752.7	7,256,322.1	-656,430.6	2,674,502.60	2,439,619.30	-234,883.30	70.3%	-8.8%
公用車の走行量	km	1,040,664.7	979,152.3	-61,512.4	7,531.32	7,206.77	-324.55	0.2%	-4.3%	
浄化槽によるし尿及び雑排水の処理	人	5,104.6	4,778.9	-325.7	93,714.70	87,742.88	-5,971.82	2.5%	-6.4%	
自動車用エアコンディショナーの使用	台	184.0	209.0	25.0	3,588.00	4,075.50	487.50	0.1%	13.6%	
合計					3,679,378.65	3,472,386.58	-206,992.07	100.0%	-5.6%	

項目別構成比

平成23年度の温室効果ガス排出量合計では、対基準年度比5.6%の減少となっています。

電気使用量による温室効果ガス排出量が全体の70.3%を占め、燃料全体（ガソリン、灯油、軽油等）の割合が26.9%となっています。

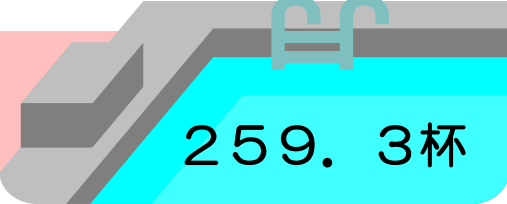
項目別排出量内訳（平成23年度）



対基準年度比の削減量

206,992.05kg-CO2 とは、

25mプールだと



※1kg-CO2=0.509m³

※25mプール容積 25m*13m*1.25m=406.3m³

吉野杉が1年間に吸収する二酸化炭素量では

31,601

※住宅の柱が一本取れるような吉野杉が1年間に吸収するCO2の量 6.55kg-CO2/年

2. 項目別の温室効果ガス排出量

＜二酸化炭素(CO₂)を排出するもの＞

最も排出量の多い「電気使用量」の平成23年度における実績は、対基準年度比で8.8%減少しております。減少の大きな要因は、平成22年度で各小中学校に設置した太陽光発電システムによるもの、庁舎・診療所等における節電効果が挙げられます。

「ガソリン使用量」における排出量は、対基準年度比0.2%の減少となっております。鮎原診療所、建設課など使用量が減少している施設もありますが、サルビア、窓口サービス課などで使用量が増加しているため、0.2%の減少に留まっています。

「灯油使用量」における排出量は、対基準年度比14.6%の増加となっております。これは、小路谷火葬場における火葬での灯油の使用、庁舎内での冬季における石油ストーブの使用が増加したためです。

「軽油使用量」における排出量は、対基準年度比22.5%の増加となっております。この増加の大きな要因は、環境整備課のダンプ等でBDFの使用を中止し軽油を使用するようになったこと、消防施設による消防車等による使用量の増加が挙げられます。

「A重油使用量」における排出量は、対基準年度比1.2%の減少となっております。市民交流センターの温水プールにおけるA重油使用量が大幅に減少していますが、サルビアでのA重油使用量が増加しているため1.2%の減少に留まっています。

「LPガス使用量」における排出量は、対基準年度比3.0%の増加となっております。これは、学校給食、サルビア等によるLPガス使用量が増加したためです。

「都市ガス使用量」における排出量は、対基準年度比7.1%の増加となっております。これは、学校給食及び洲本庁舎でのガスストーブの使用量が増加したためです。

＜メタン(CH₄)・一酸化二窒素(N₂O)を排出するもの＞

「公用車の走行量」における排出量は、対基準年度比4.3%の減少となっております。消防施設、農地整備課、環境整備課の走行量が増加していますが、その他では、乗合せや自転車の使用等による効率的な車両運行により減少しているため、全体では減少しています。

「浄化槽によるし尿及び雑排水の処理」における排出量は、対基準年度比6.4%の減少となっております。市営住宅に居住している人数の減少、小中学校の生徒数、保育所等の園児が減少したためです。

＜ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)を排出するもの＞

「自動車用エアコンディショナーの使用」における排出量は、対基準年度比13.6%の増加となっております。これは、庁舎、消防施設、福祉施設での公用車台数が増加しているためです。

3. まとめ

実行計画では、平成19年度(基準年度)と比較して6%の削減を目標としていますが、平成23年度の調査結果では、基準年度比5.6%の減少となっています。

本市では、電気使用量における温室効果ガス排出量の割合が全体の約7割を占めていることから、いかに電気の使用を抑えるかがポイントとなっています。また、燃料使用量では、A重油以外の使用量が増加しているため、電気の使用に加えて燃料の使用も抑える必要があります。

平成20年度から平成23年度における実績は、

- ・平成20年度 11.4%の減少
- ・平成21年度 14.6%の減少
- ・平成22年度 0.6%の減少
- ・平成23年度 5.6%の減少

であり、過去4年間の実績での平均では8.0%の減少となり目標の6%を達成しています。しかし、平成23年度の結果は、平成19年度と比較すると増加している項目が多いため、今後は各課(所)において、それぞれ所管する事務及び事業の実施にあたり、より一層省エネ行動に配慮した適切な事務処理を行うとともに、設備改修等ハード面の対応も検討していく必要があると考えます。